

選択肢別回答数

2012年04月22日 实施

地方上級 全国型

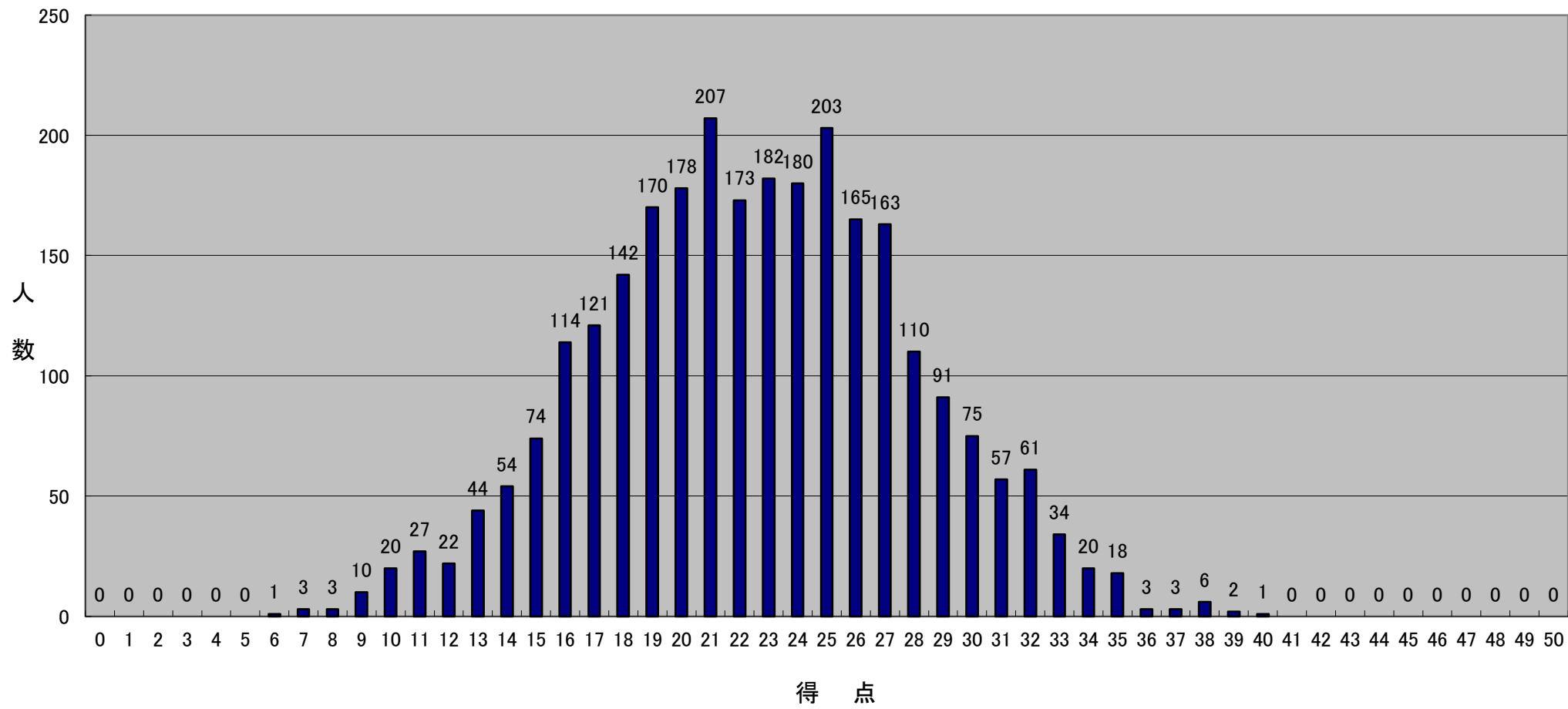
教養択一試験

会場+自宅

総受験者数 2737

[illegible][illegible]

得点分布グラフ



上位者ランキング

順位	会員番号	受験番号	得点	受験地
1	0101750517	450062	40	梅田
2	9100084135	340205	39	津田沼
2	9100418118	180250	39	渋谷
4	0100047733	110005	38	早稲田
4	0101530118	180015	38	大宮
4	0103956407	130003	38	池袋
4	0104158204	910591	38	自宅
4	9100253213	710037	38	自宅
4	9540865029	865029	38	神戸大学
10	0101742417	490027	37	なんば
10	0101748017	490032	37	なんば
10	0101812806	430165	37	京都
13	0101761017	490098	36	なんば
13	0104008002	450075	36	梅田
13	9540852015	852015	36	淑徳大学

選択肢別回答数

2012年04月22日 実施

地方上級 全国型

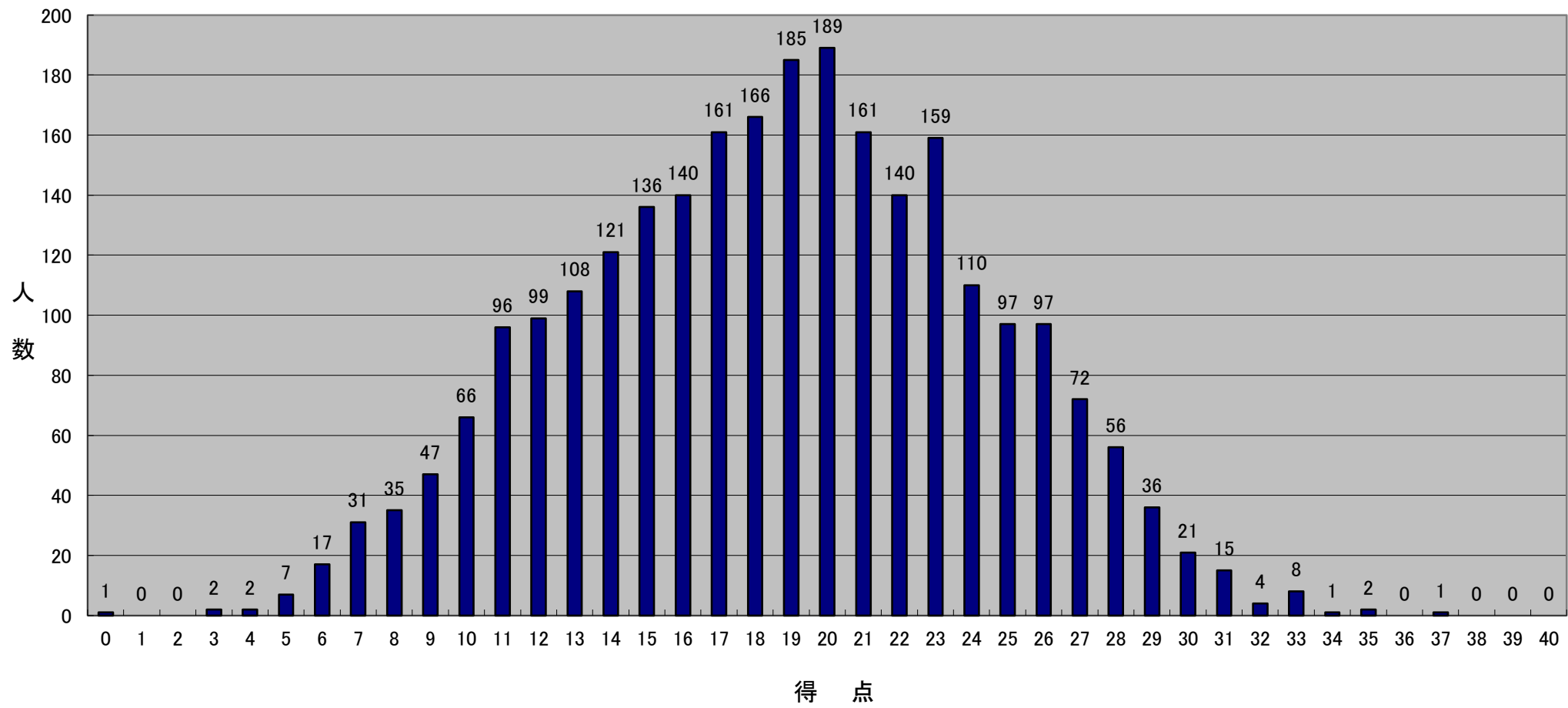
專門一試験

会場+自宅

総受験者数 2589

[illegible][illegible]

得点分布グラフ



上位者ランキング

順位	会員番号	受験番号	得点	受験地
1	0101734317	490051	37	なんば
2	0100037033	300021	35	大宮
2	0101042213	710002	35	熊本
4	0792593695	010068	34	大宮
5	0101618821	480003	33	なんば
5	0101667721	990170	33	神戸
5	0101880506	420002	33	京都
5	0101909406	440008	33	京都
5	9100325213	560048	33	福岡
5	9100537706	440053	33	京都
5	9100644924	080096	33	新宿
5	9102978112	470140	33	梅田
13	0100047733	110005	32	早稲田
13	0101645317	480021	32	なんば
13	0101857506	420021	32	京都
13	9103336598	430157	32	京都

TAC公務員講座 第4回公開模試（地方上級 全国型） 講評

I. 教養択一試験

- 1. 文章理解** 文章理解からの出題は内容把握問題が多い。本試験では英文趣旨把握問題が出題されるのが特徴なので、日頃から英文に慣れておきたい。数的処理の苦手な人は文章理解で8割程度得点できるとよいだろう。内容としては素直に趣旨を読み取らせるものが多く、基礎力が試されるものが多い。筆者が何を述べようとしているのか、自分なりにまとめる練習をしておくといよい。
- 2. 数的処理** 今回の模試は、基本を再確認してもらうために、難易度をやや低めに設定した。【No.35】（ベン図）、【No.36】（すれ違い）は平易な問題である。これらを落とすと厳しいだろう。【No.40】（正六面体の展開図）、【No.41】（サイコロ）も、平易な問題であり、空間把握を苦手とする人でも得点できるはずである。【No.42】（円の回転）は、得意・不得意の分かれる分野であるが、公式を覚えるだけでなく、軌跡の基礎を押さえておけば得点できる問題である。【No.44】（剰余）、【No.46】（不定方程式）は、他の試験種でも出題頻度が高いので、要注意である。【No.48】（暦算）は、近年、地方上級や市役所での出題が多い。暦算では、どの問題もほぼ同じ考え方で解けるので、解説をもとにしっかり復習してもらいたい。【No.50】（三角グラフ）は、出題頻度こそ低いものの、忘れたところに問題があるので、注意が必要である。以上の点を踏まえると、16問中10問以上正解できれば、合格レベルと考えてよい。
- 3. 自然科学** 基本から標準レベルからの出題である。【No.19】は、2点間の距離、二次関数の動点の置き方、点と直線の距離の公式、平方完成、これらすべてが使いこなせないと解けない問題である。正答を得ることが出来なかった人は、どの知識が抜けているか確認しておいてもらいたい。【No.20】～【No.24】は、いずれも基本的な問題である。【No.25】は、天気予報などで天気図を見慣れていないと解くことはできない。7問中6問以上は正答を得たい。
- 4. 社会科学** 法学は憲法を中心に基本的な内容が出題される。人権・統治がまんべんなく出題されるが、比較的平易な内容のため確実に正解を導きたいところである。経済は理論が出題される。その他、選挙制度や国家観などのほか、環境問題、国際機関まで要注意である。
- 5. 人文科学** 日本史・世界史・地理で6～7問の出題である。日本史はテーマ史が要注意である。世界史はアジア史のうち、欧米との関係性が高いものが要注意である。時代に偏らずバランスよく出題される。地理は特定の範囲に限らず、まんべんなく出題が見られる。そのため体系的な学習を心掛ける必要がある。

II. 専門択一試験

- 1. 政治系** 政治学について、【No.1】は、政治心理学の著名な公式がH. ラズウェルのものであるかどうかを判定できるかを問うもので、難易度は高めである。承知していない受験者も多いと思うが、この模試を契機に把握しておくといよいだろう。【No.2】は、民主政治の思想史についてであるが、こちらも難易度は高めである。ちなみにウェストミンスター型とコンセンサス型という区別については初見の受験者も多いと思うが、内容的には難しいものではないので解説を読んで知識として追加しておくといよいだろう。**行政学**について、【No.3】は、代表的官僚制に関する問題であるが、本問の難易度は標準的なものである。とくにアメリカにおけるアフーマティブ・アクションの思想と結び付けて覚えておくことが重要である。【No.4】の政治過程の理論についても、難易度は標準的なものである。ただし平易な問題でありがちな著名な学説提唱者とその内容の組み合わせが妥当であるのかだけで判断すると「引っ掛け」られてしまうおそれがある。地方上級の問題の場合、内容自体が妥当であるのかについても、しっかり吟味することが必要である。**社会政策**について、【No.34】の雇用情勢は、やや細かく考えるかもしれないが、消去法で選べるようにしておきたい。この機会に解説を読んで傾向を把握しておこう。【No.35】の我が国の社会保障制度も制度の細かい理解が要求されるが、消去法で選べるようにしておきたい。【No.36】のイギリスの社会政策の歴史はやや細かい内容となっているが、この機会に解説を読んで復習しておこう。**国際関係**について、【No.37】の集団安全保障に関する問題は、平易なレベルのものである。間違えた受験者は、いま一度、集団安全保障の歴史および現在の日本のPKOにおける対応（自衛隊をどこに派遣しているか etc.）について復習しておくことをお勧めする。【No.38】の大戦間の国際関係は、教養試験の世界史でも出題される可能性があるものである。これについても事実関係をしっかり復習することが重要である。
- 2. 法律系** 過去の出題傾向をみる限りマイナー分野（憲法保障、受益権、占有権、質権等）から問われるのも地本試験の特色である。近時の傾向に合わせてみた。各種試験種の共通問題を中心に講評しておく。まず、**憲法人権**については、近時、思想・良心の自由に関して判例に動きがある。特に君が代伴奏拒否訴訟（最判 19・2・27）の判例（肢 4）は要注意である。統治に関してはいわゆる「ねじれ国会」が依然として問題となっている。その意味で予算等財政に関する問題は要注意である。次に、**行政法**では、近時、行政裁量、行政計画、行政契約、原告適格、処分性、差止めの訴えにつき判例に動きがある。その意味で行政契約及び差止めの訴えに関する問題は要注意である。国家賠償法 2 条に関する問題では問われた判例（高知落石事件、87 時間事件等）を再度確認すること。また、**民法**については時効の援用権者に関して代表的な肯定例（保証人、第三取得者）及び否定例（後順位抵当権者）を押さえておくこと。法定地上権についても近時判例に動きがあるので、問われた判例を押さえること。法定地上権は特に同一所有者の要件が問われることが多い。相殺に関する問題は要件・効果および基本判例を再度確認すること。自働債権と受働債権の差異を押さえること。さらに、**刑法**について総論から因果関係に関する出題が多い。その意味で因果関係に関する判例問題は要注意である。いわゆる見解問題の出題も予想されるので、代表的見解（条件説と相当因果関係説）を押さえておくこと。また、各論については財産犯に関する出題が多い。窃盗罪に関する問題については基本判例が素材になることが多い。今回素材になった判例（保護法益・不法領得の意思等）を押さえること。最後に、**労働法**労働法についても労働基準法から賃金に関する問題、労働組合法から労働協約に関する問題は本試験の頻出テーマであるので、基本事項を中心に確認しておくこと。
- 3. 経済系** 地方上級試験の経済原論分野は、基本問題と応用問題をバランスよく出題しており、基本問題でも単純なパターン暗記では得点できない問題があるので、その手の問題が得点できるかどうか合否の分け目ともいえよう。本模試では【No.22】の無差別曲線に関する問題、【No.23】の費用関数に関する問題、【No.24】のゲーム理論に関する問題、【No.26】の国民経済計算に関する問題、【No.30】の国際収支統計に関する問題の計 5 問は必ず得点しておきたい内容である。また、財政学分野は、地方財政に関する論点は頻出項目であるので、十分に知識整理を心掛けたい。本模試では【No.33】の地方財政計画についてはどの試験種でも、さらに教養択一試験でも出題が予想できるテーマなので、得点できるように準備されたい。また、経済原論・財政学分野を通じて、上記にあげた問題以外の問題については、基本レベルでは全く歯が立たないわけではない内容なので、解答解説を参照して論点を確認し、本試験時には1問でも多く得点できるよう奮起されたい。
- 4. 経営学** 地方上級の経営学は例年、比較的難易度の低い問題が出題されるためできれば2問とも、悪くとも1問は正答してもらいたい。経営戦略論に関する出題はアンゾフの成長ベクトル、ポーターの競争戦略は頻出論点であり必ず押さえておいてもらいたい。経営組織論に関する出題は、組織のタイプの意義と長所短所を中心に押さえてもらいたい。事業部制組織、マトリックス組織などは頻出論点であり必ず押さえておいてもらいたい。

III. 論文試験

地方上級試験なので、国家目線ではなく、あくまでも広域自治体、基礎自治体で何ができるのかということを考えるべきである。地域事情や一般的時事を問う自治体、あなたの能力を問う自治体と、論文課題にも様々なバリエーションがあるので、受験先の過去問を入手し、傾向をつかんでおきたい。

平成24年4月21日(土)～23(日)実施

★ TAC公務員講座 第4回公開模試 結果データ ★

【地方上級 全国型】

	平均点	受験者数	科目	問題番号	科目平均点
教養択一	22.5点	2,737名	社会科学	1～12	4.3点
			人文科学	13～18	3.5点
			自然科学	19～25	2.1点
			文章理解	26～34	4.9点
			数的処理	35～50	7.1点
専門択一	18.6点	2,589名	政治系	1～4 34～38	3.6点
			法律系	5～21	9.1点
			経済系	22～33	4.8点
			会計系	39～40	1.1点
総合成績	39.96点	2,751名	—	—	—
小論文	※平均点を出していません	2,399名	—	—	—

※本表の総合成績の平均点は、教養択一と専門択一の合計点で平均を算出しております。